

プラント状況確認結果(平成 29 年 9 月 5 日～平成 29 年 9 月 12 日)

平成 29 年 9 月 12 日
福島県原子力安全対策課

平成 29 年 9 月 5 日～平成 29 年 9 月 12 日までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所 1～4 号機のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりであり、前回の報告から大きな変動はありません。

[参考事項]

平成 29 年 8 月 3 日に発生した 4 号機原子炉建屋南西側に設置されているサブドレンピット No. 51 の水位が一時的に低下した事象について、東京電力は追加的なサブドレン水(地下水)の分析を毎日実施していますが、これまで建屋内の汚染水による影響は確認されていません。なお、水位低下の原因は近傍における新たなサブドレンの掘削工事による影響と判断し、再発防止対策を実施した上で工事を再開しています。

平成 29 年 9 月 8 日、タンク解体作業に従事していた協力企業作業員の鼻腔内部に汚染が確認されたと東京電力より報告がありました。当該作業員の内部被ばくは約 0.01 mSv と評価しています。詳細はこちら [\(1\)](#) [\(2\)](#) [\(3\)](#) を御覧ください。

(1) プラント状況 (9 月 12 日午前 5 時)

場所	目的	監視項目	1号機	2号機	3号機	4号機 ^{※2}
原子炉 ^{※1} (核燃料)	冷却	注水量 (m ³ /h)	2.8	2.9	3.0	—
		圧力容器 下部温度 (°C)	27.4	33.2	31.9	—
	未臨界確認	キセノン 135 濃度 ^{※3} (Bq/cm ³) (A系)	1.27×10 ⁻³	検出限界値 未満	検出限界値 未満	—
圧力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (体積%) (A系)	0.00	0.01	0.02	—
使用済燃料 プール	冷却	水温 (°C)	29.2	45.4 ^{※4}	27.8	28.5

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧ください。

※2 4号機は原子炉及び使用済燃料プールに核燃料が入っていないため冷却等は必要ない。

※3 実施計画に定める制限値は、1 Bq/cm³以下である。

※4 使用済燃料プール循環冷却停止時の安全性を確認することを目的に、8月21日から9月下旬(予定)で冷却停止試験を実施している。試験前の水温は30.0°Cであり、冷却停止による水温上昇の予測値は約5.3°C(運転上の制限温度は6.5°C)としている。

(2) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果 (9 月 12 日午前 10 時)

最小 0.509 (MP-6) ～ 最大 1.742 (MP-4) μSv/h ⇒ [計測地点の地図](#)

(3) 発電所専用港内の海水中セシウム 137 濃度の測定結果 (9 月 11 日採取分)

最小 検出限界値未満 (物揚場前、港湾口) ※各検出限界値は約 0.54、0.46 Bq/L
～ 最大 7.5 (1～4号機取水口内南側) Bq/L

(4) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム 137 濃度の測定結果 (9 月 11 日採取分)

5、6号機放水口から北側に 30m : 検出限界値未満 ※検出限界値は約 0.64 Bq/L
1～4号機放水口から南側に 280m : 検出限界値未満 ※検出限界値は約 0.53 Bq/L

(5) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果

※大気中の放射性セシウムについては、敷地境界に設置されている連続ダストモニタにより24時間連続での異常検知が可能であることから、可搬型ダストサンプラを用いたガンマ核種分析については、平成29年8月30日をもって廃止となりました。敷地境界における連続ダストモニタの値はリアルタイムで公開されていますので、[こちら（東京電力HP）](#)を御覧ください。

(6) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(9月8日採取分)

最小 検出限界値未満（3、4、5、6号機） ※各検出限界値は5.2、4.3、5.2、4.7 Bq/L
～ 最大 150（2号機）Bq/L

（お問い合わせ 024-521-7255）